

モノづくりの基礎

～これからの日本のものづくりを考える～

■研修内容

震災、原発問題、少子高齢化、ASEANの台頭、高い人件費など「六重苦」などと揶揄される日本の製造業。だが、その生産技術や卓越した技能はいまだ世界のトップだ。

「自分自身が自分の強みをわかっていない」ことが自信喪失につながる。日本のものづくりの現状を正しく認識し、これからのあるべき姿を模索する。そのためには正しい知識と情報が必要となる。

幸い国内には素晴らしい経営理念や技術力を持ち、利益を上げている企業が多くある。「日経ものづくり」誌の「ものづくり塾製造コース」でそれらの企業レポートを執筆した講師自らの解説から、その企業の強みを学び取り、自社のあるべき「ものづくりの姿」を描くための能力を、この講座を通じて身に付けて頂きたい。



概 要

■日程：2015年10月16日(金)

■時間：10時～17時

■会場：倉吉交流プラザ(第1研修室)

倉吉市駄経寺町187-1

■定員：15名(先着順)

※定員を超える場合、同一企業人数は調整させていただく場合があります。

■受講料：1,000円(一人当たり、テキスト代含む)

《お申込み手続き》

①受講者：別添の「平成27年度鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト標準高度化教育 受講申込書」に記入し、下記連絡先にファクシミリで申し込んでください。

②事務局：受講通知を受講者様宛に、申込書に記載のメールアドレスへ送信します。

③受講料：セミナー当日持参してください。

《キャンセルについて》

受講料受領後に、受講者様のご都合により、受講途中で出席出来なくなった場合は、お支払いいただいた受講料の返金は致しかねますので、予めご了承下さい。

■講習時に用意いただくもの：筆記用具

■主催：鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会

《連絡先》鳥取県立産業人材育成センター(倉吉校内)

電話：0858-27-5333 ファクシミリ：0858-27-5334

電子メール：sangyoujinzai-center@pref.tottori.jp

スケジュール

1. ものづくりの要素と資格

- S(安全)、E(環境)は「ものを作る資格」
- Q(製品品質)は「ものを売る資格」
- C(価格)、D(納期)は「競争する資格」

2. 日本のものづくりの現状

- 日本のものづくりの置かれた現状を考える

3. これからの日本のものづくり

- これからの日本のもの作りを考える
- ものづくりの競争力の「根源」

4. これからの日本のものづくり「実例」

- フルデジタル製造工場
- デジタルとアナログが融合した楽器作り
- SNSで顧客をつかむ町工場
- 森に佇む工場の強さは風通しの良さとセル生産
- 情報公開で顧客を獲得する町工場
- 丁寧な作業を重ねてマザーマシンを生む現場
- セルとラインの融合でオーダー生産を実現
- 「夢工場」でコスト競争に立ち向かう若き経営者

5. 質疑応答

講師プロフィール

【関 伸一(せき しんいち)】

関ものづくり研究所 代表

【略歴】

専門である機械工学及び統計学を基盤として、品質向上を切り口に現場の改善を中心とした業務に携わって参りました。ローランドDG社では、改善業務の集大成として考案した「デジタル屋台生産システム」で、大型インクジェットプリンタ等の大規模アセンブリを完全一人完結組立を行ない、品質/生産性/作業者のモチベーション向上をすべて実現。多くのものづくり企業やメディアに称賛され、勤務先の業績向上に貢献しました。

ISO9001/14001のマネジメントシステムにも精通し、実務改善に寄与するマネジメントシステムの構築に精力的に取り組み、その延長線として労働安全衛生を含むリスクマネジメントシステムの構築も成し遂げました。関ものづくり研究所代表。静岡大学工学部客員教授。

【著作】・日経BP社「日経ものづくり」誌「ものづくり塾製造コース」連載など

